



消防署だより

水の事故は、川・海・プール・浴槽など、身近な場所でも起こります。特に子どもや高齢者は、短時間の水難事故でも危険な状態になるため、「川などに近づかない」「目を離さない」「無理をしない」が基本です。

【子どもの水難事故防止】

子どもだけで水辺に行かせない。浮き輪だけに頼らず、ライフジャケットを着用する。

保護者はスマホに集中せず、常に見守る。

家庭の浴槽でも、少量の水も残さない。

ベランダのバケツや小型プールも使用後は水を抜く。

【海や川での注意事項】

天候・波・流れを事前に確認する。遊泳禁止区域には入らない。

飲酒後は泳がない。

川は、急に深くなる場所や流れの速い場所があるため、注意する。

海では、離岸流（沖へ流される流れ）に逆らわず、岸と平行に泳ぐ。

【プールでの注意事項】

準備運動をする。

体調不良時は泳がない。

飛び込み禁止場所では飛び込まない。

万一おぼれた人を見つけたら、すぐに助けを呼び、浮くもの（ペットボトル・浮具）を投げる。意識・呼吸がなければ、心肺蘇生を行うとともに119番通報をする。

【覚えておきたいポイント】

おぼれている人は、大声を出せないことが多いです。また、静かに沈むケースもあるため、「いつもと様子が違う」に、いち早く気づくことが重要です。

夏場は、特に水の事故が増えるため、事前に家庭や学校での安全ルールを確認しておきましょう。

.....

6月の火災・救急件数

火災1件（前月より2件減）

救急148件（前月より2件減）

消防本部予防課 ☎21-0121

シリーズ 神楽 ユネスコ登録に向けて

社会教育課 ☎21-1516

2 備中神楽とは

備中神楽とは、古くから岡山県西部に伝わり、農作物の豊作や家内安全を願って奉納される郷土芸能で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。もともと、災いや病気などを引き起こす神（荒神）の心を鎮めることを目的に奉納されることから「荒神神楽」、備中神楽を舞う舞台である神殿を設け、荒神をはじめとする神々を招いて行うことから「神殿神楽」とも呼ばれ、主に神官が演じる神事としての性格の強いものでした。

現在でも、地域によっては、7年や13年に一度、荒神神楽が行われています。

江戸時代後期には、川上郡福地村（現在の高梁市落合町福地）に生まれた神官西林國橋が、それまでの荒神神楽に加えて「古事記」や「日本書紀」といった神話を取り入れ、「岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」の三編から構成される演劇性に富んだ「神代神楽」を創作し、人気を博し地域に定着しました。

現在では、地域の秋祭りで奉納されるほか、イベントなどでも披露されています。奉納予定については、10月ごろに市ウェブサイトでお知らせする予定です。お近くで奉納がありましたら、ぜひお立ち寄りください。



神楽奉納の様子（妙見神社）
（『高梁市歴史的風致維持向上計画（第2期）』より）



備中神代神楽碑（成羽町下日名）



備中神楽オブジェ（成羽地域局前）